

新
才
選
集

20230618 VOL.8 ANOHA_HA

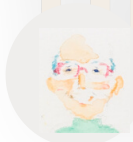
NO.1 SUN



華
才
通
信

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

今回の表紙について:百合の球根はたくさん「百」の鱗片が「合」わさってひとつの鱗茎(球根)となっているんです。
わからんけど (イスン)



見ると元気になる花は、紫陽花 やmultifloraマルチフローラ 日本原産の「のばら」のこと

第8回 「響き合ってひとつになる」

トソスンヤン ありがとうございます。

紫陽花が好きです。

理由はいくつかあります。

子供の頃、通学途中に、昨夜の雨で花びらに雨粒がついてキラキラしている紫陽花を見るたびに、嬉しくなっていました。



しかし、バラとか、パンジーとか、チューリップとか、椿とか、百合など、花にはたくさんの種類がありますが、紫陽花ほどは惹かれませんでした。もちろん、どの花も美しいし、可愛いですが、紫陽花のようではないのです。

実は、どの花にも現している光の質というのがあって、それが自身の原初の光の質と同じだと、互いに光の質が響き合い、その花に心が惹かれるのだと思います。

それから、ンヤンが紫陽花を好きなもう一つの理由として、小さな花がたくさん集まって、ひとつの大きな花になっているということです。

一つひとつの花が自身の欣びを現し、そしてみんなで大きな欣びになっています。

初めからある全体という達成がこのように現れているのを見るのも嬉しいのです。

今は花が綺麗な季節です。

ぜひ皆さんもご自分が惹かれる花を鑑賞して下さい。

ちなみに、マ～紫陽花もあります。

みんなでマ～マ～言いながら咲いています。

トソスンヤン ありがとうございます



見ると元気になる花は…特に以前は青い紫陽花でしたが、最近はピンクとか薄い色の紫陽花も元気になります。

第8回 ツケオ(大塚 道敬)さんについて

トソスキツマ ありがとうございます。

今回は、ツケオ(大塚 道敬)さんについてお伝えいたします。



【農法・講座運営 担当】

今治農地にて農作物を育てつつ、今治事務所にてシステムエンジニアのようなお仕事もされていらっしゃいます。

Q1. ツケオさんにとってK-PVTとは

A1. K-PVTとは、毎日の日課であり、真実を開くものであり、未来の達成を受け取り、進化するためのツールと感じています。K-PVTの実習を毎日日課として行っていますが、それはとても自然な毎日の習慣になっています。真実を開くため、未来の達成を受け取り、未来の創造をすることを思うことが、毎日K-PVTの実習を行うことのモチベーションとなっています。

Q2. ツケオさんにとってKIRとは

A2. KIRとは、ンヤン先生からのギフトだと感じています。みんなが自身の真実を開き、未来の達成を受け取り創造することを目的として、今生で輪廻転生のカルマから抜け出し、真実を生きること、みんなが本当の意味で繋がること、喜びを広げ豊かさの素晴らしさを知って欲しいというンヤン先生の思いが、形になったものがKIRだと感じています。

ツケオさんが自然体でいらっしゃる時、その響きの広がりや強さを感じて、コトハやK-PVTをご存知ない方なども、ツケオさんを慕って引き寄せられているなあ。と感じます。

トソスキツマ ありがとうございます。



植物から自然知性を学ぶ

ツケオ

第8回 意図を持って種を植える事で、光の円環構造が始まる

トソス ツケオ ありがとうございます

最近の今治畑では、大豆の種を植えています。収穫した大豆は、自家製手作り味噌をつくる為の大豆になります。

種を植えるとは、G1である全体、達成という意図を持つことです。例えば、大豆の種を植えるときには、味噌をつくる事を意図して大豆を植えようとします。

また、種を撒く間隔は、苗が成長して大きくなった光景という達成を観て、その観た間隔で種を撒きます。

つまり、G1である全体、達成とは、初めからある青写真のような未来の姿です。初めからある青写真を形にするためにG2からG9の円環構造の階層構造により響きが形として具現化されます。

願望を叶えるには、意図が全て、意図100%という知識がありますが、種を植えることを思い創造する人には、何かしらの意図があるのは当然だと思えます。

種を植える事がG1全体で、芽が出て花が咲き成長していく段階でG2からG8の段階があり、最後のG9段階として種が実り達成を受け取ります。

このG9段階での種は、次年度のG1の種となります。

大豆ひとつから成長して約200粒の種が出来ますが、達成は常に大きくなります。

自家製味噌をつくるために大豆を育てていますが、自家製味噌汁の食事を食べた方が、進化することが実は真実の意図かもしれません。

自家製味噌汁から進化する人々が増えたら、その価値は何千億倍という価値を世界に拡げることにつながるでしょう。

ひとつの種を植えることから、全ては始まり、この光の円環構造は、永遠に続きます。



トソス ツケオ ありがとうございます



見ると元気になる花は…心花（ときめき） どんな花に対しても、光を観ようと意図して花をみて、全体性を受け取るとき、元気になります。

第8回 大三島の稲作

トソスワナム

ありがとうございます

じめじめした日中にも暑さを感じ、夏に向かっている大三島です。

大三島にも今治市と比べるとちらほらと耕作放棄地の田んぼや使われている田んぼを見ることができ
ます。

かつては多く稲作が行われていましたが、今では島のほとんどが柑橘の畑や宅地にとって代わっ
ています。

現在、大三島で行われている稲作の特色は早期米栽培にあり、5月上旬のゴールデンウィークに田
植えを行い、8月末から9月上旬に稲刈りが行われるそうです。

稲の早期栽培が普及した背景には、田植えをするときに比較的の水に恵まれ、8月でほぼ終わるの
で島の稲作の宿命であった育成期の水不足の解消と、柑橘の栽培との労働力配分の合理化できると
いう大きな利点があったそうです。

早期米が普及した背景には、柑橘の栽培を中心に考えられていて、柑橘の栽培が忙しくなる前に、
お米を収穫することを念頭に考えられています。

柑橘あつての農業が大三島では主流となっています。

基本的には大三島ではお米専門の農家はいないそうです。

トソスワナム

ありがとうございます。



第8回 自由

トソスヤリノ ありがとうございます。

ヤリノは現在、TCMの復習の合間を縫って4回講座である「光の5次元を創造する」第2回「ミコトを生きて真の願望を達成する」を復習しています。

ヤリノが東京から愛媛に移住する前に繰り返し視聴していたことを思い出しながら、赤字で色々書き込んだテキストを読んでいます。

P.3~4に、絶対の光がミコトオンの働きによって個別化される時に光は相対的になり、闇を現すようになる、ということが書かれています。何度も繰り返されているように、「闇は闇であって悪ではない」ことを改めて認識します。個別の光が絶対の光とのつながりを失うことで、気づきが「個別化された光が全て」であるかのように誤解する、ということです。

この感じ…どこかで覚えがありませんか？ ヤリノは初めて自分の足で立った頃の記憶はありませんが、その「感覚」が浮かんできました。また、初めて補助輪を外して自転車に乗った時の感覚です。

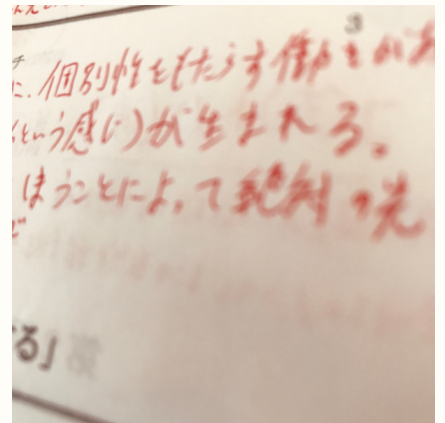
ハイハイしているのも補助輪をつけているのもとても安定しています。そこから2本の腕を、2つの補助輪を外すことで不安定になります。そのことによって私たちはもっと「自由」になります。

自由の「由」は理由や手段などを表す漢字です。自らを由とする…それは自我が生まれ、さも私たちはそれが自由であるかのように感じ、自我を守ったり隠したりする不純な印象によって偽の願望を叶えようとするのです。ここでいうと、例えば「転ばないようにする」ということです。

自分の足で、補助輪なしで冒険することで、倒れて転んで「ほんとは地球とひとつなんだ」と思い出すことができる。

日々の活動の中で転んで痛い思いをしたとしても、すべてはひとつに向かう途上です。

トソスヤリノ ありがとうございます。



第8回 コトハには48のオンがあります

トソスワトホ
ありがとうございます。

コトハには48の音（オン）があり、1オン毎に固有の知性があります。

知性とは光のことであり、光がコトハの響きによって具象化していくことで

この世界は毎瞬間創造されています。

コトハの音が二つ以上連なったものを音節と言い、その階層における全体性に基づいて音節ごとの知性があります。

コトハでは48オンを9つの音節に分けています。

トソスワトホ
ありがとうございます。



第8回 キオマ食堂の掟？

トソスナエン ありがとうございます

キオマ食堂にお越しいただいた際、ルールのようなものがあるとするなら。
入口で受付を済ませた後は、以下の点をお願いし、ご協力いただいております。

店内ではセルフサービスでお願いします。

お席はご自由に。

箸置き、お箸、白湯、プレート&おむすび、お汁椀をとりお席へご用意ください。

お食事はよろしければ是非、オンワの作法で召し上がってみてください。

食後は、ご自身でカウンター内の流しで食器を洗って拭いていただいております。

ご不明な点がありましたら、なんなりと。

一番戸惑われるのは、流しの蛇口からの水の出し方かもしれません。

少し特殊な方法でナエンも最初どうすれば水が出るのかわかりませんでした。

キオマ食堂のお昼の流れで、週末のチケカフェでも食器を片付けてくださろうとするお客さまが
いらっしゃるのですが、そこでは片付けの心配ご無用。

チケカフェではごゆるりと五感でお茶と空間を味わってくださいね。

キオマ食堂は、みなさまをお待ち申し上げております。

トソスナエン ありがとうございます



第8回 その8

トソスチケエ ありがとうございます。

先日、記憶の再創造診察・その②を受けてまいりました。

なるほどガッテン。いろんな人生があるだな、よく出来てるなあ（我ながら）と思うと同時に、チケカフェは、その転換した正のエネルギーを、自身が本気で現すための場でもあるんだなあ、わし今世で卒業するんだっぺなー、と思った次第です。もじよもじよ悩んでもおどおどしてもまちがってても知らんしーでも、目覚めたのなら、現し続けるだけ。光の体験を、もたらし続けるだけ。なんだなあ、と。

その翌日。

KIRメンバーで、チケカフェの光の質&純粋な思いについて話し合う場面があり、ちけえは傍らでその日の菓子仕込みをしながら、自身の担当ステップ1・全体として、全員とつながる意図を持ってオンライン参加をしていました。何周もターンを重ねていく中で、その前日の診察で出た、いくつもの大切なワードが、ぐるぐるステップをまわす仲間の口から、次々とこぼれはじめたではありませんか。わしまだ誰にもシェアしてへんのに、なんでわかったん？テレパシー？

実際の現場がどのようなようだったかわかりませんが、あくまでもチケエ個人ではなく、チケカフェについての話なのですが、そこから風がぐっと通り、リラックスした空気、創造のスイッチが入った、と言いたくなるような上昇気流的なものが確かに流れ、立ち上がっていて、なんかすごいことになっておる…と、思わず心の中で手を合わせていた次第です（手が離せないもので）。

その翌週、確定したチケカフェの純粋な思いと、そこに至るまでのプロセスを改めて見せていただいたとき、あ。つながった、と、かすかに、確かに思いました。

何が？

みんな、と。

もしかしたら、達成が。

続く。

トソスチケエ ありがとうございます。



見ると元気になる花は…ジャスミン。くちなし。はっさくとかレモンとかの、柑橘の花。趣を変えて、れんげもいっすね。

第6回 昔の自分

トソスワラン
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ワランです。
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第6回です。

前回のキオマ通信（第7号）でのヤリノさんの記事を読み、昔の自分を思い出しました。
ワランは、いつも目標が大きい割には勉強しないタイプで、大学受験に至っては2浪した挙句、夜間の大学にしか合格しませんでした。その時、もう二度と試験はやらない、と思ったのを覚えています。

そんなワランでしたが、2年も経たないうちに、こんどは司法試験の勉強を始めました。あれだけ大学受験で苦い思いをしたのに、もう二度と試験はやらないと思ったのに、無謀とも思える挑戦を自分でも止めることができませんでした。

必ず1回目で合格すると決め、1年半必死になって勉強し、大学4年生の春に最初の試験に臨みました。しかし、合格発表の当日、掲示板には自分の名前がありませんでした。しばらく呆然と立ちすくんでいたと思います。そして、その場から離れると、非常に悔しい気持ちがこみ上げてきました。それはこれまで人生で味わったことのないものでした。しかし、しばらくするとその悔しさは抜け、こんどは、この試験は合格する、という確信が湧いてきました。それは不思議な感覚でした。そして、その確信は、試験に合格するまで続き、その後、合格という結果を受け取ることができたのです。

人生で初めて味わった「不合格」の大きな悔しさは、実は、「合格」という大きな達成を受け取る証だったのかもしれない。

トソスワラン
ありがとうございます



第8回 胸元にボタンを咲かせて

トソスキリヲ
ありがとうございます

湿度が高まってきて、ツバメが低い場所を飛ぶ日が多くなった今治ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今治で好きな場所のひとつに、「今治商店街の手芸店」があります。ボタンコーナーがお気に入り、壁一面、所狭しと並んだバラ売りのボタンの中から、目に留まったひとつを選び、手元の洋服の第一ボタンを付け替えたりしています。

先日、エプロンを新調した際も、胸元を飾るボタンが欲しくて、手芸店へ行きました。迷ったあげく、店主さんに選んでもらったボタンは、小さな花のボタンで、帰宅後すぐにエプロンに縫い付け、針に糸を通したついでに長すぎる肩ひもの長さを調整しました。エプロンは大量生産の安物で、飾りのボタンは地味すぎる仕上がりとなり、肩紐の縫い目もガタガタですが、身に着けると嬉しさがこみあげてきます。なんというか、身に着けるたび、祝福をまとったような気分になるのです。不器用なため裁縫は大の苦手ですが、苦手でも欣びって湧くんだなど、身に着けるたびに不思議な気分になされてもいます。

このキオマ通信のとりまとめも、作業自体は苦手なことの連続ですが、寄せられた原稿を見て、目から星がこぼれるような思いをするたび、祝福を受けたような気持ちになります。本号のとりまとめでは、「言葉はなんのためにある？」という問いかけが浮かぶ場面もあり、それに対して「もう知っていた」と感じた答えを、いつか叶えてみたいと思う今日この頃でした。

それでは、次回は約2週間後のオノホのク、満月の日にお目にかかれますよう。本号もお読みくださり、まことにありがとうございます。2023年6月18日、アノハのハの新月の日に。

トソスキリヲ
ありがとうございます



見ると元気になる花は…思い浮かばず。花は見るより、選んで、飾って、眺めて、話しかけたり、水を変えたり、水揚げしたり、の関わりを持つのが好きです。

光の生命体「マ〜星人」-2-

マ〜蓮華座に座るマ〜大仏の螺髪はマ〜たち



マ〜大仏の眉間の白毫もマ〜だったりして

マ〜星人!? と思われた方はこちらへ





KoToHa *Integral Research*